

趣旨説明

加藤 鉦三
コンソーシアム 教育部会長
(信州大学)

1

成績評価の厳格化？

平成20年12月の「学士課程教育の構築に向けて」は、…各大学において…

- ・教育課程の体系化
- ・教育方法の改善

・成績評価の厳格化

- ・教員の教育力の向上
- ・学修成果の把握

などに総合的に取り組み、学士課程教育の質的転換を図ることを提言した。（「審議まとめ」p.9）

2

成績評価の厳格化？

「成績評価の**厳格**化」は意味が分からない

ありがちな誤解

1. 「成績を辛めに付けること？」
2. 「我々が**いい加減**につけていると非難する気か！（怒）」

↓

「成績評価の**透明**化」と言い替える

3

成績評価の**透明化** WHAT？

「透明化」とは、

1. 担当教員と受講生との間で
ここまでできていればC(合格)で、
更に卓越していればA

というような**了解**ができています

2. 受講生が、
自分がどこまでできているのか**モニター**できる
という2点が確保されていることを指します。

4

成績評価の**透明化** WHAT？

平たく言うと；

成績評価の透明化

= 受講生が(試験を返してもらえば)
自分の成績が素点レベルで完全予測できるようにすること

5

成績評価の**透明化** HOW？

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある

シラバスでこう書いておく

「これができるようになれば合格」

「この力を測る筆記試験で60点を取れば合格」

6

成績評価の透明化 HOW?

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある

最初の授業で学生に理解してもらう

「授業の目標から見て、
合格ラインはここ
これができるようになること」

7

成績評価の透明化 HOW?

2. **学生が**、自分がどこまでできているか分かっている
= 自分の持ち点が計算できる

例

- ・毎回小テストをし、その累積で成績をつける
- ・中間試験をし、その結果をフィードバック
- ・出席点を自分でつけている

8

成績評価の透明化 !

今述べた2つ

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある
2. 学生が、自分がどこまでできているか分かっている

実現すれば**成績評価の透明化**が実現
⇒ **大学の誇るべき文化**に

9

本日の講演2本の位置づけ

1. 教員と受講生との間で評価基準の了解がある
= 受講生が、この授業では**自分が何ができるようになればいいのか**、が明確に分かっている ⇒ アダムズ先生
2. 学生が、自分がどこまでできているか分かっている ⇒ ブライアリー先生

10

本日の後半60分で議論したいこと

- (1) 「目標を立て、それを必ず達成する」という方向性について

[目標達成] VS. [授業回数をこなす]

- (2) 小学校から大学卒業まで、一貫した方針のもとに英語教育をプログラムする、という方向性について

例: 長野県で教育を受けた人は英文でメールを書ける

11

本日の後半60分で議論したいこと

なお、ご質問・ご意見は
英語

日本語

どちらでも**OK**です。

講演者には**できるだけ日本語**で答えていただきます。

12